

2024'10 妙高・戸隠・頸城の山巡り

高妻山

いつか行ってみよう

登った山から高妻山を眺める度、今度は向こうから此方を眺めてみよう

そんな思いに何度もかられた

ヘッドランプの出発準備も、牧場内で登山届けを出すころにはランプ無用となる

早朝の牧場を抜け大洞沢からの登りとなる、昨夜の雨で若干増水気味、何度も繰り返す渡渉に靴の中も濡れてくる

滑滝左岸の直登、不動滝右岸の大トラバースも鎖でしっかり整備されている



戸隠山との分岐鞍部となる、一不動避難小屋ここから高妻山頂まで十の仏様を拝み巡ることとなる

五地藏山を越えしばらく進むと、六弥勒様が祀られた弥勒尾根分岐となる

八勢至と九阿弥陀の間は、転落注意と記された急傾斜の露岩帯

露岩帯を抜けるころ、降ってきた登山者がガスの切れ間から時々北アルプスが見えましたよと教えてくれる

言葉通り一瞬青空が見えたかと思うと、西の方に薄っすらと双耳峰、アッ鹿島ッ と、スマホを出したころには既にガスに包まれてしまった



最期の岩稜を超えたところが高妻山、二年越にようやく登ることが出来た

頂きで少し長めの休憩をとったが、いつもの逆方向からの眺めを見せることはなかった



六弥勒からの降りは、急で長い下りが続く弥勒尾根を、
傾斜も落ちて戸隠牧場も近くなるころにとうとう傘のお世話に
歩く速度も随分遅くなり、つらくもなったがそれでもこの充足感は何んとも代えがたい
思い出しては、又どこかを歩いている

なんとすがたのよいことか

一昨年(2022年7月24日撮影)戸隠山より高妻山望む



雨飾山

日程：10月7日(日)

高妻山同様、一昨年断念してから2年越しのトライとなる

前日は、ご当地の道の駅などをのんびり巡り、昼過ぎ登山口付近から眺める、雨飾山は晴れた姿を見せてくれる

登山スタートともなるキャンプ場にテントをひろげるところにはすっかり霧に包まれ雨飾山の方はガスに包まれてきた

少し贅沢に昼食とも夕食ともつかぬ、キノコちゃんこ鍋の宴会モード

明日は午後から雨の予報、予定より少し早めの出発とすることとして就寝も早めにする



日付が変わり、3時少し前にスタート

雲の隙間からほんのわずかだが2〜3個の星が透けて見える

木道が終わるといきなり坂が始まる

少し傾斜が緩んだ辺りにはブナの巨木が立ち並ぶ、ライトを照らせば「ブナ平」の標識から更に登りとなる



やがて折角登ったところからトラバース気味に降りが続く、降りたところが荒菅沢の渡渉となる

この渡渉し終わったところから次に進むべく踏み跡が分からない、闇の中で地形図が役に立たずコンパスで大体の方角を見極めようと、左岸を上がったり下ったりしばらく右往左往しながらヘッドランプでようやくテープとペンキマーキングを探しだす



細い岩稜には幾か所も梯子やロープがかけられそれらに救われながら攀じ登る
 1600m 付近、ようやく闇の空に稜線が薄っすら見えるようになる
 雨飾山山頂付近、これ以降、山頂付近を見せてくれることは二度となかった
 少しずつ明るくはなるもガスに包まれる細い尾根を上へ上へと攀じるように登る



傾斜が落ちると広ーい笹平に上がる、見通し良くピークも見えるはずなのに、残念ながら
 らすぐ先からすっかり霧の中となり、強い風に吹き上げられた水粒が雨具を叩き寒さを感じ
 る
 糸魚川雨飾温泉への道を分け傾斜のある露岩部を登ると、目の前に石仏が並んでいて雨
 飾山北峰らしい
 南へ僅か数十メートル傾斜を登ると、ガスの中にもよく見える黄色の標識に雨飾山と記
 されていた



「日本海も見える 360 度の景観のはず」は全く
ガスの中に、寒さの中はそそくさと写真を撮り下りにつく



分岐で風を避けながら休憩する

笹平を過ぎると荒菅沢まで度々こんなところを降る、濡れた丸木は滑る

今朝ほどの渡渉点まで降ると、テープ、ペンキマーク、踏み跡が渡渉点の前後をはっきり示してくれていた

ここまで降れば安心と、キノコ鑑賞、巨木ブナ鑑賞、イワナ鑑賞をしながらのんびりと降る



登山口まで降り、設営したままのテントを撤収するとまもなく雨となり、2年越しとなった雨飾山山行は完了した